

えっ？おかしいでしょ！ **日本共産党**

敬老パス「変更」案 に意見を届けよう

**利用上限額が減らされ、
健康のために頑張らな
ければ使えない…？**

札幌市は、高齢者の外出支援と生活充実を目的とした「敬老パス」を、健康増進のためとして「敬老健康パス」に変えようとしています。

高齢者の移動権を守る大切な制度ですが、変更案は利用額や利用方法を制約しており、拡充を求める市民の願いに逆行しています。

	現行（敬老パス）	変更案（敬老健康パス）
利用上限	・7万円	・2万円分のポイント（1ポイント＝1円） ※スマートフォンやポイントカードがなければ使えない
利用方法	・あらかじめ利用者負担金（利用額の10～25%）を入金して、カードをもらう	・利用者負担金はなく、初回に2,000ポイントもらえるが、それ以上は健康増進のための行動をしなければポイントをもらえない 例：通院のために往復1時間歩く → 960ポイント スマホ教室に通う → 3,000ポイント 健康管理サイト「こびまる」を利用する → 1,825ポイント など ※札幌市の公式HPより
交通機関	地下鉄、バス、市電	地下鉄、バス、市電、JR、タクシー

**7万円から2万円
に削減されるの？**



はい、現行では利用上限は7万円ですが、変更案では上限は「2万円分のポイント」に。現行制度では利用者のうち2万円以上チャージしている高齢者が35%に上りますが、こうした市民は利用が大きく制限されることとなります。

また、これまで市民が願ってきたタクシーやJRへの利用拡大が検討されているのは前進ですが、それならばなおさら利用上限額を減らしてはなりません。

**最初から2万円分
もらえるわけじゃ
ないの？**



はい。「ポイント」は「健康増進」のために頑張って「かせぐ」必要があります。歩行や運動が大変な方がどうすればいいかは示されていません。また、スマートフォンやポイントカードなど「デジタル」を上手に利用することも求められます。

**もう決まっちゃっ
たことなの？**

いいえ。札幌市は2025年度からの運用開始を目指して、現在市民からの意見を募集しています。よりよい制度になるよう、札幌市に意見を伝えましょう（裏面に連絡先など記載）。

お近くの日本共産党の事務所へも、ご意見をお寄せください。

「敬老パス」をどうしたらいいか…



札幌市へ意見を伝えましょう

①市の「意見交換会」へ参加してみよう

昨年12月から始まっている「意見交換会」が、1月も継続されています(下記)。パネル展示もされていますので、気軽に参加してみましょう。他に、2月に市主催のシンポジウムも予定されています。

1月12日(金)		札幌サンプラザふれあい広場	北区北24条西5丁目
1月16日(火)		清田区民センター	清田区清田1条2丁目
1月17日(水)	パネル展示 14:00~17:00 説明会 16:00~17:00	札幌駅前通地下歩行空間・北2条広場	中央区
1月19日(金)		豊平区民センター	豊平区平岸6条10丁目
1月23日(火)		BiVi 新さっぽろ BiVi パーク	厚別区厚別中央1条6丁目
1月25日(木)	パネル展示 14:00~15:30 説明会 16:00~17:00	札幌市生涯学習センターちえりあ	西区宮の沢1条1丁目
1月27日(土)	パネル展示 10:00~13:00 説明会 12:00~13:00	アリオ札幌1階ロフト前	東区北7条東9丁目

②電話で意見を伝えよう (※2月29日まで)

- ・「敬老健康パス制度」への札幌市の意見受付窓口 電話番号050-3662-4042
※受付時間9時00分~18時00分(つながらない場合は録音によるメッセージ受付もあります)

③市のホームページから意見をアップしよう (※2月29日まで)

- ・札幌市の公式ホームページの「ご意見フォーム」のページで入力します。
 - ①検索エンジンで「敬老健康パス制度の素案に対するご意見・ご要望をお寄せください」と入力して、検索すると、一番上にヒットします。
 - ②または、札幌市の公式ホームページから、以下の順にクリックします。「健康・福祉・子育て」→「福祉・介護」→「高齢福祉・介護保険」→「健康寿命の延伸について」→「健康寿命延伸に向けた新たな高齢者施策について」のページ中ほどの「WEB ご意見フォーム」をクリックする。

「対話で」「SNSで」市民の世論を広げましょう

敬老パスは、市民の移動する権利を保障する、大切な「足」です。

日本共産党札幌市議団は、これまでも敬老パスの JR やタクシーへの拡大を求める市民の運動に連帯して制度の拡充を求め、市民の願いを聞き取るアンケートも実施してきました。

「こんな制度改変でいいのか」——対話で、SNSで、一人でも多くの方と一緒に考えていきたいと考えています。



日本共産党